

# 感動一点の場

『蝦夷残侠传 さし絵』  
(連載第3回目、月刊ダン2巻8号掲載より)

1974年 小川原 脩 画

『蝦夷残侠传』は、1974～75年にかけて雑誌「月刊ダン」(北海道新聞社)に連載された倉島齊(1932-2011)の時代小説で、小川原脩はこの連載小説のさし絵を手掛けました。その数36点。小川原の作品では珍しい水墨画風、そして力強い人物描写が目を引きまします。小川原にこの仕事を依頼した編集長の竹岡和田男氏は、「デッサンが十分だから動きがいい。墨の濃淡が空間で効いてムードを盛る。そして実在の人物を正面から描いたときの強く深い表現力」と絶賛しています。

では「さし絵」を見てみましょう。主人公の与惣次が得意の鎖術で、非道な行いをする侍たちに対峙する場面。手前下部に屋敷の庭が墨色濃く表現される一方、画面上部に登場人物が争う様子を描いています。明暗で分けた一枚の絵の中で、闇夜の立ち回り、与惣次が繰り出す鎖の強烈な一撃、その臨場感が強調されているのです。竹岡氏の賛辞にも納得の、さし絵の面白さを見ることができます。

文：沼田 絵美(小川原脩記念美術館 学芸員)



## 一病気の妻のための発明品一

日本の昔話に「おじいさんは山へしば刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました…」とあるように、遠い昔から洗濯は女性(主婦)の仕事とされ、数多くある主婦労働の中でも最も重労働とされてきました。しかし、そんな中出現した洗濯機は、女性の生活を根本から変えた、いわば「女性解放の道具」でした。

その先駆けが「カモメホーム洗濯機」です。この洗濯機は、無名の発明家であった高月昭雄氏が、結核を押して家事をこなす奥さんを楽しみたいと1955(昭和30)年に考案し、1957(昭和32)年に群馬県の林製作所が製造、販売しました。わずか30センチの球体には長袖のワイシャツなら3枚入り、タンク内にお湯と洗剤、洗濯物を入れ、ふたをきっちり閉めてぐるぐる回すと、お湯で内圧が高まり、洗剤を含んだお湯が繊維の内部にまで染み込みきれいに汚れを落としました。ふたを開けるときのポンと音がするので「ポン洗濯機」とか、丸いピカピカの形態が当時のソ連の人工衛星に似ていることから「スプートニク型」などと呼ばれていました。1955(昭和30)年より始まった高度経済成長で電気洗濯機が「三種の神器」ともてはやされ急速に普及したため、手動の「カモメホーム洗濯機」は日本ではあまり普及しませんでした。しかし、合理的な欧米人にはその省力性やコンパクトなことが好まれ、日本より海外で人気があったといわれています。

同様の仕組みの手回し洗濯機は、電気を使わず水も洗剤も節約できるエコな洗濯機として現在でも販売されており、近年では、キャンプや災害時にも使える道具としても注目されています。

文：林 伸也(俱知安風土館 学芸補助員)



カモメホーム洗濯機

# ふるさと探訪

457回

## 展覧会のお知らせ

### ■第1展示室

小川原脩展 生誕110年記念「小川原脩 1911-2002」

当館が所蔵する小川原作品は、およそ700点。1930年代の美校時代のリアリズムから、80年代以降の自然と人間が交歓するアジアの大地にいたるまで、小川原が向き合ったテーマは多岐にわたります。画業の全容を、時代背景とともに一望します。

会期：開催中～7月11日(日)

### ■第2展示室

小川原脩挿絵展「蝦夷残侠传」

1974～75年にかけて雑誌「月刊ダン」に連載された倉島齊の時代小説『蝦夷残侠传』の挿絵36点。小川原には珍しい水墨画風で、人物描写も多いこの挿絵は、新たな魅力を伝えてくれるでしょう。

会期：開催中～7月11日(日)

## アート・イベントのお知らせ

### ■土曜サロン

世界のグレートアーティスト(11)「シャガール 聖書の呼び声美術館」

日時：5月1日(土)14時～15時 会場：映像ルーム(無料)

お話し：柴 勤(館長)

絵画で楽しむパリの情景(2)「近代生活の輝き ルノワール」

日時：5月15日(土)14時～15時 会場：映像ルーム(無料)

お話し：柴 勤(館長)

おとなの手しごと～額縁に挑戦!

今回は、紙・ハレパネ(のり付きパネル)による自分だけのマイ額縁に挑戦します。

日時：5月22日(土)14時～16時 会場：展示室(無料)

お相手：沼田絵美(学芸員) 定員：10名 ※要予約

ユネスコ世界遺産(9)「水の恵み」

日時：5月29日(土)14時～15時 会場：映像ルーム(無料)

お話し：柴 勤(館長)

■ギャラリートーク「小川原脩 1911～2002」

日時：5月8日(土)14時～14時30分 会場：第1展示室(無料)

お話し：沼田絵美(学芸員)

■金曜ナイトサロン「美術館でフランス語～ゼロからの旅立ち③・④」

美術の世界にはフランス語が満ち溢れています。作家名や作品タイトルなど読み方を知るだけでも楽しみは一気に広がります。途中からでもOK。ゼロから始めます。

日時：③5月7日(金)④5月21日(金)各18時～19時 会場：映像ルーム(無料)

お話し：柴 勤(館長) 定員：5名程度 ※要予約

■俱知安風土館いきもの調査隊 in 百年の森「セイヨウオオマルハナバチの採集調査」

日時：5月15日(土)9時～12時 定員：なし 場所：百年の森公園(現地集合) ※予約不要

講師：小田桐 亮(学芸員)、宮崎 守(百年の森管理人) 参加費：無料 持ち物：虫捕りあみ

■俱知安風土館 ふるさと探訪(観察会)「春の森の野鳥観察」

日時：5月16日(日)9時～13時 定員：8名 場所：旭ヶ丘公園(現地集合) ※要予約・先着順

講師：矢吹 全さん(ニセコネイチャーガイド・フォレストレック主宰) 参加費：250円(保険代)



小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)

高校生 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

俱知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※( )内は10名以上の団体料金

5月の休館日 毎週火曜日、6日※4日開館

17日、19日※風土館のみ

### 新たな気持ちで!

この原稿を書いているのは4月の半ば。時折、小雪や寒風に見舞われるものの、美術館の動きは既に春本番です。新年度の第一弾は、小川原脩の生誕110周年を記念した大回顧展に加え、企画展示室での挿絵展。何と小川原脩は今から50年近く前、1年間にわたり月刊誌の時代小説に挿絵を描いていたのです。江戸時代の侍や庶民の姿には勢いがあり、人物の描写も実に見事。画家の知られざる一面を発見できることでしょう。さらに4月からはイベントの新企画もいろいろと用意、さあ、新たな気持ちで再スタートだ!

館長 柴 勤